

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	中心市街地活性化推進事業			決算書頁	316
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	12 中心市街地の活性化を推進します				
所管部・課	市民生活部 産業振興課	作成者	課長 中西 成明		

2. 事業の目的

中心市街地の活性化の推進

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	16,385	14,266	2,119	一般財源		16,385	14,266	2,119
	事業費	7,533	5,244	2,289	国県支出金				0
	職員人件費	8,852	9,022	△ 170	地方債				0
	公債費			0	特定財源(都市計画税)				0
参考	職員数(人)	1	1	0	特定財源(その他)				0
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

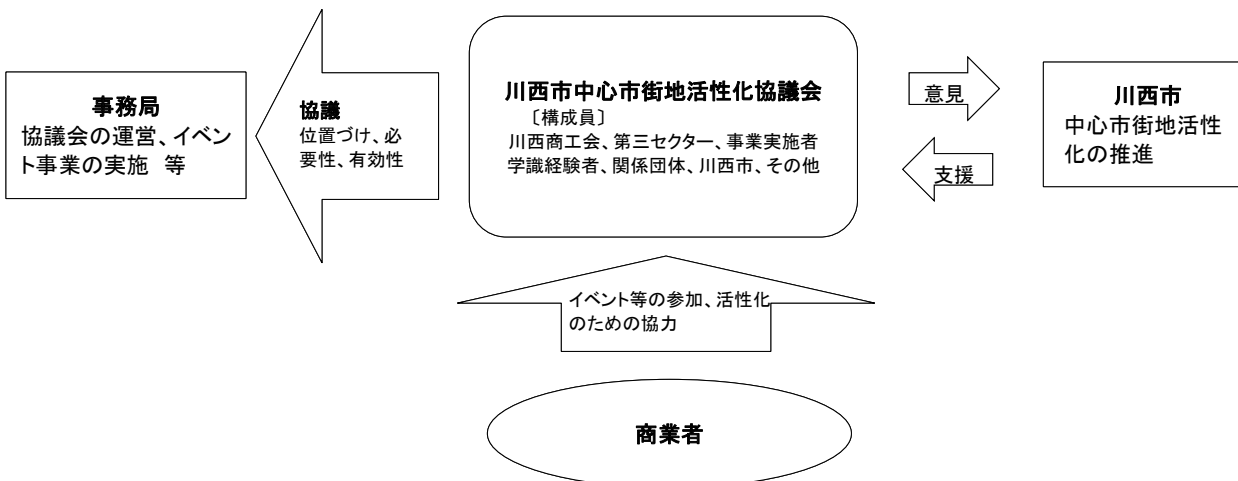
＜細事業1＞	中心市街地活性化推進事業	細事業事業費	7,533
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市民及び商業関係者		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	川西市中心市街地エリア 約80ha		
(3)参画と協働の主な手法(実績)	共催、実行委員会	補助、助成、報償	
(4)25年度の実績と成果			

【取組】

川西市中心市街地活性化協議会(以下、「協議会」という。)に対して助成金を交付し、中心市街地の活性化に向けた事業及び同協議会の運営に対する支援を行った。

主な内容

- ・川西市中心市街地活性化基本計画(以下、「基本計画」という。)の推進のための関係部局や関係団体との協議
- ・協議会の運営支援
- ・川西能勢口駅周辺の商業活性化のための支援やそのためのイベント事業の実施



(実績)

協議会の主な活動

協議会は、内閣総理大臣の認定を受けた基本計画の意見機関であり、中心市街地の活性化につながる事業推進のために、協議会及び事務局会議、事務担当者会議などの開催や、本市の中心市街地の現況把握と課題分析、にぎわい形成のための方針や方向性などを協議している。主な事業は以下の通りである。

(協議会等開催数)

・協議会 3回開催 ・事務局会議開催 6回開催 ・事務担当者会議 4回開催

基本計画に係る実施事業

・第5回きんたくんバル(平成25年4月27日(土)実施) ・第6回きんたくんバル(平成25年10月12日(土)実施)

川西能勢口周辺の事業者(きんたくんバル実行委員会)による食べ歩き・飲み歩きの事業を実施

【第3回きんたくんバル実績】参加店:76店 チケット販売枚数 5枚セット:989冊

【第4回きんたくんバル実績】参加店:72店 チケット販売枚数 5枚セット:787冊

【第5回きんたくんバル実績】参加店:84店 チケット販売枚数 5枚セット:1,122冊

【第6回きんたくんバル実績】参加店:74店 チケット販売枚数 5枚セット:1,010冊

・まちなか美術館～きんたくんギャラリー～(平成26年2月22日(土)～3月9日(日)実施)

川西能勢口周辺のまちなか空間(事業所の空きスペースなど)を美術館に見立てる事業を実施。

【実績】9会場で実施 参加作家58名 作品数120点 各商業施設に芸術作品を展示することにより、回遊性が創出された。

・「光のオブジェ」事業(平成25年12月10日(火)～平成26年1月15日(水)実施)

川西能勢口駅前バスターミナル花壇内に星形のイルミネーションを設置し、幻想的な空間を演出。

・川西能勢口駅周辺歩行者通行量調査(平成25年11月20日(日)・24日(火)実施)

基本計画の目標指標である歩行者通行量の増加を図るため、毎年、同時期に実施

H24休日(11.25)数値	H25休日(11.20)数値	H24平日(11.27)数値	H25平日(11.24)数値
63,126人	⇒ 63,850人	59,867人	⇒ 63,295人

5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について		第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて	
【成果】 基本計画に基づき、きんたくんバル等の活性化事業を実施することにより、まちににぎわいが創出され、結果として、歩行者通行量が年々増加している。さらに、新たな活性化事業である「まちなか美術館～きんたくんギャラリー～」を実施したことで、さらなるにぎわいが生まれた。 【課題】 歩行者通行量の増加から、通勤・通学者を含め多くの人々が中心市街地を訪れているが、店舗の売上等の上昇に繋がっていない。 中心市街地の活性化のためには、事業者等が一体となって活性化に向けて取り組むとともに、商業関係団体の自立を促し、中心市街地の活性化に自ら取り組む仕組みづくりが必要である。		基本計画は平成27年3月で計画期間が終了するが、今後も引き続き、中心市街地の活性化を図るために、第2期基本計画の策定を進めていく。そのために、関係団体等の意向を確認するとともに、関連する各部署と連携を図りながら、現状の問題点を分析し、中心市街地活性化推進事業の方向性や今後の取組内容等を協議していく。	
自己評価	☐ 適正	今後の方向性	☒ 拡充
	☒ 改善の余地あり		☐ 継続
	☐ 改善すべき		☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	川西都市開発株式会社経営支援事業			決算書頁	316
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	12 中心市街地の活性化を推進します				
所管部・課	公共施設再配置推進室	作成者	主幹 阪上 哲生		

2. 事業の目的

川西都市開発株式会社の経営安定化を図る

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	38,229	500,000	△ 461,771	一般財源		38,229	500,000	△ 461,771
	事業費	29,377	500,000	△ 470,623	国県支出金				0
	職員人件費	8,852		8,852	地方債				0
	公債費			0	特定財源(都市計画税)				0
参考	職員数(人)	1		1	特定財源(その他)				0
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	川西都市開発株式会社経営支援事業	細事業事業費	29,377			
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		川西都市開発株式会社				
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)		1社				
(3)参画と協働の主な手法(実績)						
(4)25年度の取組と成果						
1. 川西都市開発株式会社経営健全化助成金の交付						
助成目的						
川西都市開発株式会社(以下「会社」という。)の経営の健全化を図ることにより、アステ川西ビル全体の良好な環境水準を維持するとともに、川西能勢口駅周辺のにぎわいと商業振興を図ることを目的に交付する。						
助成対象						
会社がサブリース※している賃貸借の物件のうち、空き店舗に係る共益費及び催事店舗に係る家賃収入で賄えない共益費を対象とする。 ※転賃、又賃しのこと。						
助成額						
① フロア又はエリア再構築までの間は、助成対象経費の全額を助成する。						
② 再構築したフロア又はエリアについては、助成対象経費の1/2の額に減額して助成する。						
助成期間						
助成期間は、5年間とする。ただし、期間終了後、必要と認めるときは、助成期間を延長することができる。						
2. 空き店舗・催事店舗の状況						
	平成25年3月末		平成25年10月末		平成26年3月末	
	空き店舗	催事店舗	空き店舗	催事店舗	空き店舗	催事店舗
3階	4	5	3	5	1	4
2階	4	7	2	8	12	0
1階	1	9	2	9	7	4
地下	5	0	0	0	0	0
計	14	21	7	22	20	8

平成26年3月末時点で1・2階部分の空き店舗が増えているのは、平成26年4月に実施するリニューアルオープンに向けた準備によるため。

平成26年3月末時点で1・2階部分の空き店舗が増えているのは、平成26年4月に実施するリニューアルオープンに向けた準備によるため。

3. 川西都市開発株式会社第28期(平成25年度)の経営状況について(参考)

損益計算書

単位:百万円

	H24年度決算	H25年度決算
売上高	800.3	778.4
売上原価	505.1	483.2
売上総利益	295.2	295.2
販売費及び一般管理費	305.6	293.4
営業利益	▲ 10.4	1.8
営業外収益	19.5	14.8
営業外費用	33.8	29.1
経常利益	▲ 24.7	▲ 12.5
特別利益	61.7	119.9
特別損失	0.0	345.0
法人税住民税事業税	3.0	0.3
法人税等調整額	▲ 1.7	▲ 1.7
当期純利益	35.8	▲ 236.3

4. 会社経営再建計画の進捗状況について(参考)

(1) 仕入原価の見直し

地権者の賃借料及び敷金の見直し(平成26年3月末現在)

地権者	承諾	交渉中
43名	41名	2名

項目	支払賃料(百万円)	差入敷金(百万円)
①交渉前金額	26.3	723.5
②交渉後金額	22.9	463.5
改善金額(①-②)	3.5	259.9
目標金額	21.6	423.1
改善達成率	73.4%	86.5%

(2) 売上の向上

地下1階に新規10店舗がオープン(平成25年春)

1・2階に新規6店舗及び改装9店舗がオープン(平成26年春)

各フロアの店舗見直し(平成27年春予定)

(3) 組織見直し

区分	平成25年4月	平成26年3月末	増減
男 性	8名	5名	▲ 3名
女 性	5名	2名	▲ 3名
合 計	13名	7名	▲ 6名

※人数に契約・パート社員は含んでいません。

5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について

平成25年度の会社の経営成績は、上記損益計算書のとおり経営再建に向けた整理費用などを計上した特別損失の影響により、当期純利益は大きく赤字となった。

このような状況の下で、市が行った当該助成金は、アステ川西ビルの良好な維持管理に寄与できたと考える。

今後、会社がフロア再構築の未着手部分の見直しを行い、経営再建計画に一定目途が立つまでの間、市は当該助成を継続する必要がある。

一方、会社としても、現在取り組んでいる経営再建計画を着実に進めることが最大の課題であると認識しており、最大限の努力をもって取り組んでいるところである。

第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて

平成26年4月25日にアステ川西1・2階を中心としてリニューアルが行われ、施設内のにぎわいを一定取り戻している。また、会社の再建計画に基づく取り組みも積極的に行われ、平成26年度の当期純利益は黒字転換すると会社は予想している。

今後、安定的な経営を確保するため、経営再建計画の完遂はもちろんのこと、周辺商業施設との競争に勝ち抜ける魅力ある店舗展開を継続していく必要がある。

また、管理組合が抱える課題ではあるが、ビル全体での施設老朽化が顕在化してきており、安全快適な施設維持管理に本格的に取り組んでいく必要があると考える。

一方、市としては、アステ川西の継続的発展のため、会社の事業手法の再構築を含めたあり方検討をしていく必要がある。

自己評価

☐ 適正

☒ 改善の余地あり

☐ 改善すべき

今後の方向性

☐ 拡充

☒ 継続

☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	農業振興事業			決算書頁	310
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	13 農業を振興します				
所管部・課	市民生活部 産業振興課	作成者	課長 中西 成明		

2. 事業の目的

地域農作物の生産振興と地産地消等の推進

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	24,724	26,676	△ 1,952	一般財源		23,327	25,266	△ 1,939
	事業費	7,020	8,632	△ 1,612	国県支出金		1,381	1,395	△ 14
	職員人件費	17,704	18,044	△ 340	地方債				0
	公債費			0	特定財源(都市計画税)				0
参考	職員数(人)	2	2	0	特定財源(その他)		16	15	1
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	水田農業総合対策事業	細事業事業費	1,244			
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内農業者					
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	生産組合員数 732人					
(3)参画と協働の主な手法(実績)	補助、助成、報償					
(4)25年度の取組と成果						
【取組 1】川西市農業再生協議会運営						
(目的)	国内の農業経営の安定と国内生産力の確保を図り、食料自給率の向上と農業の多面的機能を維持するために、経営所得安定対策の推進や、実施における連携体制の構築、米の需給調整の推進などを図る。					
(事業実績)		H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
生産目標面積(ha)		74	74	73	73	70.6
作付け実績(kg)		370,520	347,154	333,417	310,919	349,489
配分対象農業者(人)		612	612	602	599	597
【取組 2】耕作放棄地の解消と担い手の育成への取り組み						
(目的)	本市においては、「農業振興地域」がないため、農業経営基盤促進法に基づく「基本構想」を策定し、法的な制限の緩和等を利用し、耕作放棄地の解消と担い手の育成に取り組む。					
(事業実績)	・ 農業塾の開催 受講者 8人 (市内在住又は在勤者で、農業に興味がある人)					
	現場実習及び座学を8回実施					
	・ 市民ファーマー制度					
	非農家であっても、認定を受けた人が、小規模な農地(1アールから10アール)を借りて、農業を始めることができる制度。					
	実績 1名 山原地区の農地を平成26年4月から3年間借りて耕作を実施予定(平成25年度認定)					
	・ 認定農業者					
	農家が積極的に農業を展開するために、国の有利な支援策が受けられるよう経営改善計画を作成し、市による認定を受けることによって、認定農業者となる。					
	実績 1名 (西畦野地区)					

(単位:千円)

＜細事業＞	農業振興推進事業	細事業事業費	5,776						
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内農業者								
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	生産組合員数 732人								
(3)参画と協働の主な手法(実績)	補助、助成、報償								
(4)25年度の取組と成果									
【取組 1】 川西市農林業振興支援事業									
(目的)	農林業の健全な発達と振興及び地域の活性化を図るために、各種団体で組織された研究会又は広域的に農林業を支援している団体に、当該補助金を交付することにより、農林業及び経済の発展向上に寄与する。								
(対象団体)	川西市農業振興研究会、川西市営農研究会								
(事業実績)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象団体</th> <th>事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川西市農業振興研究会</td> <td>① 農業特産物の奨励事業（品評会、即売会、講習会等） ② 農産物の流通対策事業 ③ 研究事業（現地視察、花き品種・鳥獣防除・病害中研究会） ④ 土づくり事業</td> </tr> <tr> <td>川西市営農研究会</td> <td>即売会等で利用する桃、いちじくの箱や市内直売所等で利用する防曇袋及び農業用廃棄ビニール、廃棄農薬の処理に対して助成。</td> </tr> </tbody> </table>			対象団体	事業内容	川西市農業振興研究会	① 農業特産物の奨励事業（品評会、即売会、講習会等） ② 農産物の流通対策事業 ③ 研究事業（現地視察、花き品種・鳥獣防除・病害中研究会） ④ 土づくり事業	川西市営農研究会	即売会等で利用する桃、いちじくの箱や市内直売所等で利用する防曇袋及び農業用廃棄ビニール、廃棄農薬の処理に対して助成。
対象団体	事業内容								
川西市農業振興研究会	① 農業特産物の奨励事業（品評会、即売会、講習会等） ② 農産物の流通対策事業 ③ 研究事業（現地視察、花き品種・鳥獣防除・病害中研究会） ④ 土づくり事業								
川西市営農研究会	即売会等で利用する桃、いちじくの箱や市内直売所等で利用する防曇袋及び農業用廃棄ビニール、廃棄農薬の処理に対して助成。								
【取組 2】 有害鳥獣等捕獲頭数									
	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度				
アライグマ(頭)	98	84	57	66	82				
ヌートリア(頭)	0	21	5	3	0				
イノシシ(頭)	37	63	19	29	42				
シカ(頭)	12	32	7	13	35				
【取組 3】 都市農業に対する市民の理解と協力への取り組み									
(目的)	住宅と農地が混在する都市農地では、地域住民の理解と協力がなければ営農は継続できない状況であり、地域住民に都市の中に農地のあるメリット等を感じてもらい、理解を深めてもらう。								
(事業実績)	・都市農業サポーター制度 原木しいたけの収穫など、サポーター向け講座を2回実施								

5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について		第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて	
【成果】 農業振興研究会を通じて、いちじく・桃等の即売会など継続的に農業振興に係る事業を実施していることに加え、新たな取組として、農業塾の開催や市民ファーマー及び認定農業者がそれぞれ1名誕生し、市民ファーマーにおいては、平成26年4月から耕作開始予定。 また、アライグマ・シカ・イノシシなどの有害鳥獣対策では、捕獲数も増加し、被害防止に努めた。 【課題】 特産物等の消費者層を拡大するためには、特に若年層やファミリー層へのPRが必要である。また、鳥獣被害については、農作物被害の撲滅までには至っていないため、捕獲体制等を見直し、より効果的な手法が必要である。 さらに、市民ファーマーをはじめ、都市農業サポーターなどは、まだまだ希望者が少なく、参加者の増への取り組みが必要である。		特産物等のPRについては、従来の方法に加えて、都市農業サポーターの活用による情報発信等を行うなど、参加の取り組みを進めていく。 鳥獣被害については、猟友会等の協力体制の強化や県及び専門機関と連携し、効果的な捕獲体制を確立させ、捕獲頭数の増に努める。 認定農業者、市民ファーマー制度等については、農家及び市民にその制度の周知に努めるとともに、農業塾の修了生を中心に、市民ファーマーや農業ボランティアに育成していくなど、耕作放棄地の増加抑制や担い手の育成に取り組む。	
自己評価	☐ 適正 ☒ 改善の余地あり ☐ 改善すべき	今後の方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	農業用施設改良事業			決算書頁	312
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	13 農業を振興します				
所管部・課	市民生活部 産業振興課	作成者	課長 中西 成明		

2. 事業の目的

ため池の安全対策及び農業用水の安定的な供給を図る

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	37,395	22,969	14,426	一般財源		11,457	13,549	△ 2,092
	事業費	37,395	22,969	14,426	国県支出金		22,747	6,886	15,861
	職員人件費			0	地方債				0
	公債費			0	特定財源(都市計画税)				0
参考	職員数(人)			0	特定財源(その他)		3,191	2,534	657
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	農業用施設改良事業		細事業事業費	37,395
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		生産組合員		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)		30地区		
(3)参画と協働の主な手法(実績)		補助、助成、報償		
(4)25年度 of 取組と成果				
【取組 1】 農業用施設改良(応急)事業				
(事業実績)	対象地区	工事内容		金額(円)
	小戸地区	井堰上の構造物が老朽したことに伴う機能回復工事(工事延長約75m) 関係受益面積・戸数(10ha 40戸)		198,450
	東畦野地区	東畦野農業用水路の底面補修(底面より10cm生コンクリート施行)延長100m 関係受益面積・戸数(1.2ha 5戸)		278,250
	笹部地区	①底樋土工事 ②スライドゲートφ 300 (大草上池)		400,000
	一庫地区	①水路土砂埋設撤去 ②生コンクリート作業		200,000
【取組 2】 ため池一斉点検及び耐震診断業務 (H24年度繰越事業)				
(目的) 地震等により、ため池の下流域住民の生活や公共施設等の安全を確保し、計画的な耐震対策を推進するための調査及び点検を実施				
(事業実績)	名 称	実施内容		金額(円)
	ため池耐震照査業務委託料	市内2か所(又谷池・皿谷池)で実施。作成したハザードマップをもとに、地元説明会を実施。		11,699,100
	ため池一斉点検業務委託料	受益面積が0.5ha以上2ha以下のため池23か所について点検を実施。		1,785,000

【取組 3】大草下池改修工事及び積算等業務（H24年度繰越事業）

（目的） 警戒ため池に指定されていた大草下池は、崩壊すると下流域の水田や人家などに大きな被害が出ることで想定されたため、洪水吐等の改修工事を実施した。

（事業実績）	名 称	実施内容	金額(円)
	大草下池ため池改修工事	①取水施設 ため池栓・サイフォンをスライドバルブに改修 ②洪水吐 漏水を防ぐため L=15mの改修 ③その他 工事用進入路の造成	11,266,500
	大草下池改修工事 変更積算・現場技術業務委託料	大草下池ため池改修工事を行うにあたり、変更設計・現場技術業務を実施	2,415,000

※「農村地域防災減災事業大草下池ため池改修工事」の契約額：17,527,320円のうち 残額の6,260,820円はH26年度に繰り越し

※「大草下池改修工事 変更積算・現場技術業務委託料」の契約額：3,316,680円のうち 残額の901,680円はH26年度に繰り越し

【取組 4】小戸井堰導水路補修工事（H24年度繰越事業）

（目的） 小戸井堰導水路において、猪名川からの導水路部分で西側のマンションに隣接する部分が約70mに渡り浸食されていたことに伴う補修工事

（事業実績）	名 称	実施内容	金額(円)
	滝山町地内小戸井堰 導水路補修整備工事費	厚さ15センチのコンクリートを打設し、侵食部を補修。 （水路底面は既存コンクリートを削り、側面は現況コンクリートに打設）	3,945,922

※「滝山町地内小戸井堰導水路補修整備工事費」の契約額：6,969,900円のうち 前金額の3,023,978円はH24年度に執行済

5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について		第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて	
【成果】 警戒ため池に指定されていた「大草下池」の洪水吐に係る工事が完了した。また、地元から要請のあった、緊急性のある農業用水路や樋門などの工事に対して、市が助成することにより、農地の保全等に貢献した。 【課題】 近年、ため池をはじめ、水路や樋門などの農業用施設の老朽化が著しく、その補修工事に対して、地元から市の支援を求める相談が増えており、今後、各地域の施設の状況を把握し、計画的に支援していく必要がある。		農業用施設の改修工事等に対し、予算の範囲内で優先順位を決めて支援する。 また、農業者の高齢化や担い手不足により、今後、ますます農業用施設の維持管理が困難となることが予想されることから、施設の機能廃止等を含め、地元の意向を踏まえた施設管理が必要となる。	
自己評価	☐ 適正 ☒ 改善の余地あり ☐ 改善すべき	今後の方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	農業用施設等災害復旧事業			決算書頁	474
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	13 農業を振興します				
所管部・課	市民生活部 産業振興課	作成者	課長 中西 成明		

2. 事業の目的

災害による農業用施設等の復旧

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	804	630	174	一般財源			94	△ 94
	事業費	804	630	174	国県支出金		259	284	△ 25
	職員人件費			0	地方債				0
	公債費			0	特定財源(都市計画税)				0
参考	職員数(人)			0	特定財源(その他)		545	252	293
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

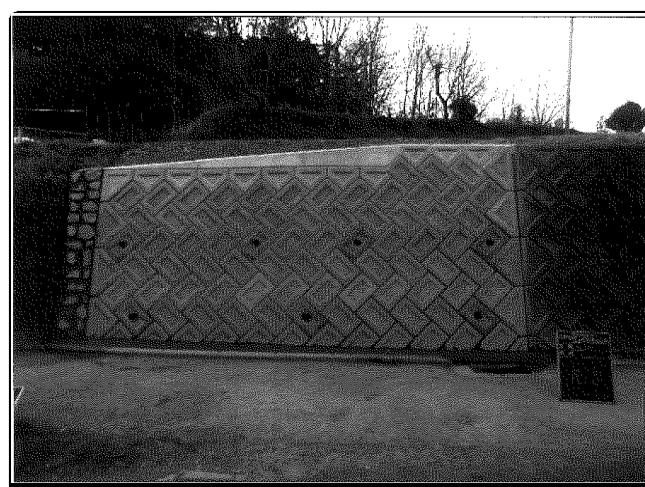
(単位:千円)

＜細事業1＞	農業用施設等災害復旧事業	細事業事業費	804
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内農業者		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	生産組合員数 732人		
(3)参画と協働の主な手法(実績)			
(4)25年度の取組と成果			
【取組 1】西多田地内 農地災害復旧工事			
(目的)	平成25年9月15日に発生 of 台風18号豪雨により農地の畦畔が崩壊したことによる復旧工事		
(事業成果)	対象者	工事内容	金額(円)
	西多田地内農家	コンクリートブロック練積工 A=13.8㎡ 盛土復旧工 A=21.0㎡	804,300

【施行前】



【施行後】



5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について 西多田地内の農地1件の畦畔崩壊の復旧工事を実施した。	第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて 災害発生時、迅速に対応する。
自己評価 ☒ 適正 ☐ 改善の余地あり ☐ 改善すべき	今後の方向性 ☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	就労支援事業			決算書頁	302
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	14 就労支援の充実と勤労者福祉の向上を図ります				
所管部・課	市民生活部 産業振興課		作成者	課長 中西 成明	

2. 事業の目的

職業紹介や求人情報の提供による安定した雇用機会の提供

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	19,622	20,042	△ 420	一般財源		16,558	16,899	△ 341
	事業費	7,900	8,156	△ 256	国県支出金				0
	職員人件費			0	地方債				0
	公債費	11,722	11,886	△ 164	特定財源(都市計画税)				0
	職員数(人)			0	特定財源(その他)		3,064	3,143	△ 79
参考	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	就労支援事業	細事業事業費	7,900			
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		主に市内求職者				
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)						
(3)参画と協働の主な手法(実績)	審議会等の付属機関					
(4)25年度の取組と成果						
【取組1】						
川西しごと・サポートセンターにおいて、若年者等をはじめ求職者全般を対象に、国(兵庫労働局)の職業相談・職業紹介等を一体的に実施した。						
(内容)						
○川西市						
・市の各種支援制度の相談及び情報提供						
・各種(生活・介護等)相談及び支援機関の情報提供						
・上記相談者のうち、就労希望者等の職業相談への誘導						
・労働相談(月2回)						
・キャリアカウンセリング(月4回)						
・再就職のためのスキルアップセミナー(年3回程度)						
○兵庫労働局						
・求人検索機(7台)による求人情報の提供						
・求職者に対する職業相談、職業紹介						
・求職者のうち、必要と思われる者に対する市実施の労働相談等への利用勧奨						
・市が要望する一体的実施事業に係る地域の効果的な雇用対策を図るため、若者の就労をサポートする就職面接会、就職支援セミナー等を事業所へ委託して実施						
(実績)・川西しごと・サポートセンター 実績						
(平成24年4月1日付けで「川西パートバンク」から、「川西しごと・サポートセンター」に名称変更)						
項目	H21	H22	H23	H24	H25	(人、件)
来所者数	35,225	32,573	29,338	34,881	31,588	
新規求職者数	2,695	2,769	2,938	1,820	1,561	
採用件数	771	803	1,076	1,212	1,002	

【取組2】

川西しごと・サポートセンター内に、「若者キャリアサポート川西」を併設し、合同就職面接会や就職支援セミナーの開催など、概ね40歳未満の若年者の就職をサポートする事業を実施した。

(内容)

○合同就職面接会

○就職支援セミナー

・応募書類作成支援 年間3回開催

・面接技術向上支援 年間3回開催

・職業意識啓発支援 年間3回開催

○若者サポート事業

・相談窓口の設置（コーディネーターによる受付、利用登録、専門家による相談予約）

・キャリア形成支援のための相談（キャリアカウンセリング 週5日）

・心理面での相談（心理カウンセリング 週2日）

・労働条件、生活支援相談（社会保険労務士による労働生活相談 週1日）

(実績) ・若者キャリアサポート川西 実績

項目	H24	H25
相談来所者数	474	621
新規登録者数	164	152
採用件数	53	89

(人、件)

項目	H24	H25
合同就職面接会in川西	272	64
就職支援セミナー	59	49
キャリアカウンセリング	351	458
心理カウンセリング	30	22
労働・生活相談	14	17
合計	726	610

(人、件)

※H24は、2回開催

【取組3】

川西市労働問題審議会を開催し、労働福祉及び雇用行政全般にわたる重要事項を調査、審議した。

開催日：平成25年7月25日（木）

平成24年度の実績を報告し、意見をいただいた。

5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について 【成果】 アベノミクスによる景気回復を背景に雇用情勢が改善傾向にある中で、川西しごと・サポートセンターの来所者数、新規求職者数及び採用件数が、一体的事業が始まった24年度に比べ減少した。しかしながら、利用者満足度調査では、「満足している」と回答した利用者が7割を超える結果となっており、利用者の評価を得ている。 また、若者キャリアサポート川西については、相談来所者数及び採用件数が増加しており、若年者の就業対策の必要性が引き続き重要であると確認できた。 【課題】 景気回復を背景に雇用情勢が改善傾向にある中でも、若年者を始め、多くの就業希望者が存在しているが、川西しごと・サポートセンター及びキャリアサポート川西を知らない人も多いため、さらに施設のPR等就職に関する情報提供を行い、本事業を周知し、利用促進を図る必要がある。	第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて 川西しごと・サポートセンター及び若者キャリアサポート川西は、市の雇用対策の拠点として重要であり、施策目標達成に有効な事業であることから、引き続き、兵庫労働局、ハローワーク伊丹と連携しながら、ホームページの活用や、各種講座、合同就職相談会等の積極的なPR等、周知に努めることで、就職率の向上を図る。
自己評価 ☒ 適正 ☐ 改善の余地あり ☐ 改善すべき	今後の方向性 ☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	労働者支援事業			決算書頁	302
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	14 就労支援の充実と勤労者福祉の向上を図ります				
所管部・課	市民生活部 産業振興課		作成者	課長 中西 成明	

2. 事業の目的

勤労者支援及び就労支援事業

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	35,247	41,516	△ 6,269	一般財源		23,319	27,944	△ 4,625
	事業費	17,543	23,472	△ 5,929	国県支出金				0
	職員人件費	17,704	18,044	△ 340	地方債				0
	公債費			0	特定財源(都市計画税)				0
参考	職員数(人)	2	2	0	特定財源(その他)		11,928	13,572	△ 1,644
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	労働者支援事業	細事業事業費	6,543		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		市内在住の勤労者及び求職者または在勤者			
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)					
(3)参画と協働の主な手法(実績)		補助、助成、報償			
(4)25年度の取組と成果					
【取組1】市内在住または在勤者を主対象に、専門カウンセラーによるキャリアカウンセリング、また労使間トラブルの解決の場として労働相談、各種セミナーを実施。					
(実績) キャリアカウンセリング及び労働相談の利用者数※()内はのべ相談回数					
項目	H21	H22	H23	H24	H25
キャリアカウンセリング	67(129)	77(121)	85(104)	88(114)	76(93)
労働相談	15(17)	21(21)	23(23)	19(19)	22(23)
【取組2】市内中小企業で働く従業員の福利厚生支援として、中小企業勤労者福祉サービスセンター(パセオかわにし)において、健康管理事業や慶弔給付事業、各種チケットのあっせん等を実施。					
(実績) 川西市中小企業勤労者福祉サービスセンター会員数及び利用者数					
項目	H21	H22	H23	H24	H25
事業所数	105	104	102	101	102
会員数	1,836	1,806	1,737	1,821	1,880
自主事業参加者数	320	297	310	296	259
健康管理事業利用者数	1,186	1,190	1,212	1,185	1,238
各種チケットあっせん枚数及び給付件数	2,979	3,095	1,956	2,839	2,987
【取組3】産業保健推進事業として、市内事業所のうち従業員50人未満の小規模事業所の従業員を対象に、健康診断を実施。					
(実績) 産業保健推進事業 申込事業所数及び受診者数					
項目	H21	H22	H23	H24	H25
申込事業所数	38	32	35	36	38
受診者数	350	306	260	241	251

(単位:千円)

＜細事業2＞	勤労者住宅資金融資あっせん事業	細事業事業費	11,000	
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内に自ら居住する住宅を建築し、または、購入しようとする勤労者 ほか			
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)				
(3)参画と協働の主な手法(実績)				
(4)25年度の取組と成果				
【取組1】				
昭和53年度に、勤労者の持家促進を支援するための住宅融資あっせん制度として発足させたが、平成15年度に新規貸付を終了しており、現在は返済及び残高に応じた預託のみを行っている。				
(実績) 勤労者住宅資金融資あっせん制度(H26.3月末残高)				
貸付年度	件数	債務残高(円)	預託金(円)	預託倍率
4	1	2,358,971	589,743	1/4
5	3	7,388,274	1,847,069	1/4
6	1	3,513,905	878,476	1/4
7	4	8,072,145	2,018,036	1/4
合計	9	21,333,295	5,333,324	
				≒ 5,330,000 …①
貸付年度	件数	債務残高(円)	預託金(円)	預託倍率
9	3	8,996,060	1,799,212	1/5
11	1	2,147,632	429,526	1/5
12	2	10,146,629	2,029,326	1/5
合計	6	21,290,321	4,258,064	
				≒ 4,250,000 …②
				①+②= 9,580,000 円

5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について	第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて
【成果】 労働相談利用者数は前年度より微増した。一方、キャリアカウンセリング利用者は減少しているものの、利用者アンケートでは、アンケート回答者全員が「参考になった」と答える結果となっていることから、高い満足度が得られている。また、市内中小・零細企業の福利厚生充実のために創設した中小企業勤労者福祉サービスセンターの会員数や利用者数が前年度に比べ増加傾向にあるとともに、近年減少傾向にあった産業保健推進事業における健康診断の利用者が前年度より微増した。 【課題】 労働相談やキャリアカウンセリングは、PRが不足しているため実績が上がっていない。また、中小企業勤労者福祉サービスセンターの利用者が、市内事業所数全体と比較すると加入率が低いことから、今後さらに加入促進に取り組む必要がある。加えて、産業保健推進事業における健康診断については、中小企業の勤労者の健康を維持するために、さらに利用事業所、利用者数を増やす必要がある。	労働相談・キャリアカウンセリングにおいては、引き続き広報等で周知するとともに、パンフレットを作成することで、相談件数の増をめざす。 また、中小企業勤労者福祉サービスセンターは、市内中小企業で働く勤労者と事業主の福利厚生の向上を図るために必要な事業であることから、引き続きサービスの内容の充実に努め、利用者を増加させていく。さらに、新規会員を増加させるために、新規加入した事業所への特典提供や、ダイレクトメールによる勧誘を実施する。 中小企業向けの健康診断については、事業所に直接働きかけるなど利用事業所の増により、勤労者の利用増を図る。
自己評価	今後の方向性
☐ 適正 ☒ 改善の余地あり ☐ 改善すべき	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	国内交流事業			決算書頁	142
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	15 観光資源を発掘・開発・PRし、知名度を高めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 瀧花 保		

2. 事業の目的

姉妹都市等との交流による友好、親善の促進

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	210	573	△ 363	一般財源	210	573	△ 363	
	事業費	210	573	△ 363	国県支出金			0	
	職員人件費			0	地方債			0	
	公債費			0	特定財源(都市計画税)			0	
参考	職員数(人)			0	特定財源(その他)			0	
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	国内交流事業	細事業事業費	210
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		市内外の市民全般	
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)			
(3)参画と協働の主な手法(実績)		ボランティア・NPO等との連携	
(4)25年度の実績と成果			
○千葉県香取市(旧佐原市)との交流 ・平成2年8月1日に、旧佐原市(平成18年3月27日、合併により香取市)と姉妹都市提携し、交流を継続していたが、提携20周年を迎えた平成22年7月17日に再度、香取市と姉妹都市提携協定書を取り交わし、交流の継続を確認した。 ・広報誌などの情報交換をとおりて交流を図った。 ・川西市国際交流協会、香取市の特産品「紅アズマ」を斡旋販売し、香取市の紹介に努めた。			
 香取市「佐原の大祭」  香取市特産 サツマイモ			

○「全国川西会議(ネットかわにし)」

・「川西」という名のもと、お互いが連携意識を高めるとともに、共同してまちの資源や特質を活かし、住民や行政など幅広い分野での交流をととして、相互に豊かなまちづくりをめざすため、平成9年11月10日に設立された。例年の総会等の開催をととして、構成市町の交流を図っている。

〔平成10年11月19日「災害応急対策活動の相互支援に関する協定」を締結〕

・全国川西会議(ネットかわにし)の総会を本市で開催し、構成市・町の相互のまちづくりや交流について協議した。

・少年軟式野球連盟が「古田旗争奪少年軟式野球大会」に山形、奈良の各少年野球チームを招待し、交流した。



平成25年度全国川西会議

5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について 姉妹都市提携から20年が過ぎ、これまで川西市国際交流協会の訪問団やサツマイモ等の販売等を通じて香取市のPRを図るなど、姉妹都市香取市や全国川西会議の構成自治体とは継続的に交流ができた。	第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて 香取市については、行政間交流が主体になっているので、観光や物産を通じた市民間交流など、市民の参画を図る方策を双方で協議していく。 全国川西会議は、構成自治体と調整を図りながら、相互の若手職員の研修などについて協議していく。
自己評価 ☐ 適正 ☒ 改善の余地あり ☐ 改善すべき	今後の方向性 ☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	観光推進事業			決算書頁	322
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	15 観光資源を発掘・開発・PRし、知名度を高めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 瀧花 保		

2. 事業の目的

本市の歴史や芸術・文化の発信により観光振興を図る

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	8,141	8,354	△ 213	一般財源		8,141	8,354	△ 213
	事業費	8,141	4,696	3,445	国県支出金				0
	職員人件費		3,658	△ 3,658	地方債				0
	公債費			0	特定財源(都市計画税)				0
参考	職員数(人)			0	特定財源(その他)				0
	再任用職員数(人)		1	△ 1					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	観光推進事業	細事業事業費	8,141
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	全市民および来街者		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)			
(3)参画と協働の主な手法(実績)	ボランティア・NPO等との連携	その他(きんたくんプロジェクト)	
(4)25年度の取組と成果			
○観光事業の育成発展と観光行政の推進を図るため、川西市観光協会へ補助金を交付した。 平成25年度末現在78会員が加入。観光プリンセスのイベントへの派遣(10回)。また、金時まつり等に参加した。 ○市や地域での各種イベントに川西の元気いっぱいキャラクター「きんたくん」を活用するなど、地域の活性化にむけた事業展開を行うとともに「きんたくん」のPRを図った。 ○「川西学検定」市民に本市のことを知ってもらうため、第2回「川西学検定」として、本市の歴史や自然などを紹介し、検定問題を掲載した冊子を広報誌と一緒に配布した。 応募総数 670人 平均点 28.6点(30点満点) ○市内のハイキングコース散策を楽しめるよう、コースをパンフレット、ホームページ等で紹介した。 ○園田競馬の「名称付市町特別競走」へ協賛し、本市の観光PRを行った。 ○「猪名川上流の地域資源を活用するネットワーク会議(いいな里山ねっと)」(川西市、猪名川町、豊能町、能勢町の行政、商工会、観光協会、兵庫県、大阪府、能勢電鉄、阪急バス、一庫ダムで構成)で、構成団体とともに観光キャンペーンや情報発信事業等を行った。			
			
黒川里山まつりで「いいな里山ねっと」PR		観光PRフェア	

○阪神北地域ツーリズム振興協議会事業

・阪神北県民局と川西市、伊丹市、宝塚市、三田市、猪名川町の4市1町や観光協会等で組織する「阪神北地域ツーリズム振興協議会」事業で、構成団体とともに大阪（梅田）と神戸（三宮）で開催された観光PRフェアに参加。また、大阪国際空港で「大阪国際空港インフォメーション」に参加し、特産品販売や各市町の観光リーフレットを配布するなど、情報発信を行った。

【観光PRフェア】

日時／平成25年8月31日（土）・9月7日（土）

場所／神戸・三宮：さんちか夢広場 大阪・梅田：ディアモール大阪（ディーズスクエア）

内容／阪神北地域ツーリズム振興協議会の構成団体で観光のPR等を行った。



【大阪国際空港インフォメーション】…阪神北地域の魅力を空港来場者等にPRした。

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
開催日	11/1～11/30	11/1～11/30	11/1～11/30	11/1～11/30	11/1～11/30
来場者数	7,403人	7,244人	6,879人	5,429人	4,842人

○きんたくんの着ぐるみ貸出件数

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
市内イベント	86	104	110	99	141
市外イベント	23	25	16	29	22
合計	109	129	126	128	163



○東谷ズム

東谷地域の活性化をめざした「ヒガンタニズム実行委員会」に補助金を交付した。

日時／平成25年10月20日（日）

場所／郷土館及び山下駅から郷土館までの沿道

来場者数／850人

内容／郷土館や東谷地域の歴史など地域資源を有効活用し、音楽演奏等を通じて東谷地域の活性化を図った。

5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について

本市の自然や歴史的資源等を活用し、川西市のPRやイメージアップを図った。

本市のキャラクター「きんたくん」を広く利用してもらったり、イベントに参加するなど、本市のPRに努めたが、さらに「きんたくん」を活用する場や機会を増やし、本市をPRにしていける必要がある。

引き続き阪神北ツーリズム振興協議会などと連携し、広域的な観光PRを行った。

第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて

本市の魅力を生かした観光PR方法をさらに検討していく。川西のキャラクター「きんたくん」は徐々に川西市のキャラクターとして定着しつつあるが、広く着ぐるみの貸出しやデザイン使用を継続し、さらに市のPRに努める。

阪神北県民局管内の市町との連携した観光PRを継続しつつ、いいな里山ねっとの構成団体等との連携手段を検討し、広域的な観光PRに努める。

自己評価

- ☐ 適正
☒ 改善の余地あり
☐ 改善すべき

今後の方向性

- ☐ 拡充
☒ 継続
☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	イベント支援事業			決算書頁	324
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	15 観光資源を発掘・開発・PRし、知名度を高めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 瀧花 保		

2. 事業の目的

歴史的・文化的資源を活用し「清和源氏発祥の地 川西」を広くPRする

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	16,880	16,813	67	一般財源		15,401	15,430	△ 29
	事業費	8,028	7,791	237	国県支出金				0
	職員人件費	8,852	9,022	△ 170	地方債				0
	公債費			0	特定財源(都市計画税)				0
参考	職員数(人)	1	1	0	特定財源(その他)		1,479	1,383	96
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	川西市源氏まつり	細事業事業費	5,001		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市民及び来街者				
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	45, 000人				
(3)参画と協働の主な手法(実績)	共催、実行委員会	補助、助成、報償			
(4)25年度の取組と成果					
「清和源氏発祥の地 川西」を市内外にPRすることを目的とし、多田神社周辺での懐古行列を中心としたイベントを、市観光協会と共催で4月14日に実施した。					
・午後からの懐古行列に先駆けて、阪急川西能勢口駅隣接の「アステ川西びいぷう広場」で、源氏武者や三御前などのお披露目等のミニイベントを開催するとともに、能勢電鉄川西能勢口駅から日生中央駅で折返し、多田駅までのイベント列車(1編成)を走らせ、PRに努めた。					
・八幡太郎義家役に市内在住の20歳の若武者を公募した。姫役(3人)の選考会にも多数の応募があった。					
・写真コンクールにおいては、市内外から多数の応募があり、市役所1階市民ギャラリーで入賞作品を展示した。					
【源氏まつりの観覧者数の推移】					
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
開催日	4月12日(日)	4月11日(日)	4月17日(日)	4月8日(日)	4月14日(日)
観覧者数	45, 000人	38, 000人	35, 000人	40, 000人	45, 000人





(単位:千円)

＜細事業＞	川西おもろ能	細事業事業費	3,027																		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	小学4年生以上の市内外の申込者																				
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)																					
(3)参画と協働の主な手法(実績)	共催、実行委員会	補助、助成、報償																			
(4)25年度の取組と成果																					
・けやき坂中央公園にある芸術作品「おもろ座石舞台」を活用し、伝統芸能である薪能の鑑賞の機会を提供するとともに、芸術文化の創造と振興に寄与することを目的に、例年開催しているが、10月5日は雨天となったため、けやき坂小学校アリーナで実施した。 ・国際交流協会が招待した留学生等をはじめ、市内外の多くの方に伝統芸能(文化)の鑑賞機会を提供した。 ・また、平成20年度から行っている会場で「川西おもろ能参加協力金」の募金活動を行い、102,715円集まった。 【演目】 仕舞:岩舟(いわふね)、玉葛(たまかずら) 狂言:狐塚(きつねづか) 能:舍利(しゃり) 【おもろ能の観覧者数の推移】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催日</td> <td>10月3日(土)</td> <td>10月2日(土)</td> <td>10月1日(土)</td> <td>10月6日(土)</td> <td>10月5日(土)</td> </tr> <tr> <td>観覧者数</td> <td>534人</td> <td>506人</td> <td>563人</td> <td>373人</td> <td>431人</td> </tr> </tbody> </table>					21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	開催日	10月3日(土)	10月2日(土)	10月1日(土)	10月6日(土)	10月5日(土)	観覧者数	534人	506人	563人	373人	431人
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度																
開催日	10月3日(土)	10月2日(土)	10月1日(土)	10月6日(土)	10月5日(土)																
観覧者数	534人	506人	563人	373人	431人																
																					

5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について 源氏まつりは、市民をはじめ多くの参加があったが、さらに「清和源氏発祥の地 川西」のPR活動や実施方法について検討する必要がある。 おもろ能の観覧者は25年度においては増加したものの、全体的には減少傾向にあることから、募集方法の検討や、より一層の周知を図る必要がある。	第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて 源氏まつりは、清和源氏発祥の地川西をPRする代表的なイベントとして定着しているが、より一層のPR方法を検討していく。また平成26年度は第50回に当たるため、記念事業として川西能勢口駅周辺に場所を変更して実施する。 おもろ能は、川西の秋のイベントとして定着しているが、さらなるPRに努めるとともに、募集方法の見直しなどを行い、幅広い世代の応募者の増加を図る。
自己評価 ☐ 適正 ☒ 改善の余地あり ☐ 改善すべき	今後の方向性 ☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	猪名川花火大会事業			決算書頁	324
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	15 観光資源を発掘・開発・PRし、知名度を高めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 瀧花 保		

2. 事業の目的

歴史的合同イベントにより多くの来訪者に本市をPRする

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内 訳	総事業費	24,779	24,696	83	一般財源	24,779	24,696	83	
	事業費	15,927	15,674	253	国県支出金			0	
	職員人件費	8,852	9,022	△ 170	地方債			0	
	公債費			0	特定財源(都市計画税)			0	
参考	職員数(人)	1	1	0	特定財源(その他)			0	
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	猪名川花火大会事業	細事業事業費	15,927
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内外の実来場者		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	52,000人(川西側)		
(3)参画と協働の主な手法(実績)	共催、実行委員会		
(4)25年度の実組と成果	池田市との共催で昭和23年から始まり、平成25年度で第65回目の開催となった。約4,000発の花火を打上げ、川西市・池田市で合計12万4000人の観客が集まった。 		

【花火大会観覧者推移】

(単位:人)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
観覧者(川西市側)	50,000	50,000	43,000	47,000	52,000
観覧者(池田市側)	70,000	65,000	60,000	70,000	72,000
観覧者(合 計)	120,000	115,000	103,000	117,000	124,000



5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について 本年度も花火大会を開催でき、多数の観客を動員できた。共催の池田市や関係機関と調整して、延期・中止決定基準を定めた。 多数の観客が見込まれることから、安全対策をさらに強化することが求められる。	第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて 今後とも、事故なく安全に実施できるよう、一層の安全対策を川西警察等、関係機関と協議し実施する。 また、当日の中止・催行決定の問い合わせが多数あるため、対応策を検討する。 近年、安全対策に対する経費などが上昇しているため、寄付金などの収入面について検討する。
自己評価 ☐ 適正 ☒ 改善の余地あり ☐ 改善すべき	今後の方向性 ☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	知明湖キャンプ場管理運営事業			決算書頁	324
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	15 観光資源を発掘・開発・PRし、知名度を高めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 瀧花 保		

2. 事業の目的

野外における活動を通じて、健全な心身を養うとともに、観光の推進と地域の振興に資する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	6,771	6,204	567	一般財源		6,771	6,204	567
	事業費	6,771	6,204	567	国県支出金				0
	職員人件費			0	地方債				0
	公債費			0	特定財源(都市計画税)				0
参考	職員数(人)			0	特定財源(その他)				0
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	知明湖キャンプ場管理運営事業	細事業事業費	6,771		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	知明湖キャンプ場利用者				
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	11,988人				
(3)参画と協働の主な手法(実績)					
(4)25年度の実績と成果					
・青少年および市民がより身近に自然体験活動・野外活動を実施する機会を提供した。					
○使用期間 3月20日～11月23日					
○休業日 火曜日 ※ただし、火曜日が祝日の場合は翌日休業 ※4月26日～5月5日及び7月16日～8月31日の火曜日は営業。 (平成23年度より、ゴールデンウィーク、夏休み期間中は、火曜日も営業。)					
○使用時間 日帰り／午前9時～午後5時 宿 泊／初日の午後2時～4時までに入場、最終日の午後1時まで退場。					
○使用料					
1名あたりの料金					
区分	テント	利用日	利用者区分	高校生以上	中学生以下
日帰	—	全日	川西・伊丹・宝塚・ 三田・猪名川・豊能町住民	300円	150円
			上記以外	600円	300円
宿泊	個人テント 持込	全日	川西・伊丹・宝塚・ 三田・猪名川・豊能町住民	300円	150円
		平日	上記以外	600円	300円
		休前日		900円	450円
	キャンプ場 テント使用	全日	川西・伊丹・宝塚・ 三田・猪名川・豊能町住民	600円	300円
		平日	上記以外	1200円	600円
		休前日		1800円	900円

※休前日は、宿泊日が土曜日及び祝日の前日をいう。

○平成25年度利用料収入 3,728,850円

○平成25年度指定管理料 5,800,000円

○知明湖キャンプ場利用者数

(単位:人)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
川西市	4,618	4,512	4,413	4,731	4,444
川西市以外	4,505	4,762	5,618	6,130	6,369
全額免除	1,038	946	1,158	1,104	1,175
合 計	10,161	10,220	11,189	11,965	11,988



5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について 施設利用者の安全面や利便性を考慮し、また、利用者増のためにも、施設の修繕等の検討を行う必要がある。 利用者数は横ばいであり、今後とも市内外からの集客を高めるためのPR方法や指定管理者による自主事業の展開等の方策が課題である。	第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて より快適にさらに多くの方が利用されるよう、シャワー施設等の修繕など、計画的に施設・設備の修繕等を行っていく。 サービスの充実や利用者増に取り組むよう、指定管理者と協議を進めていく。
自己評価 ☐ 適正 ☒ 改善の余地あり ☐ 改善すべき	今後の方向性 ☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	知明湖活用推進事業			決算書頁	328
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	15 観光資源を発掘・開発・PRし、知名度を高めます				
所管部・課	都市整備部 公園緑地課	作成者	課長 茨木 実		

2. 事業の目的

知明湖周辺の各施設の維持管理を行う

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	16,658	16,615	43		一般財源	16,658	16,615	43
	事業費	7,806	7,593	213		国県支出金			0
	職員人件費	8,852	9,022	△ 170		地方債			0
	公債費			0		特定財源(都市計画税)			0
	職員数(人)	1	1	0		特定財源(その他)			0
参考									
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	知明湖周辺施設維持管理事業	細事業事業費	7,806
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	知明湖周辺の国崎せせらぎ地区、龍化渓流地区・なぎさ出合地区		
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	知明湖周辺の施設管理		
(3)参画と協働の主な手法(実績)			
(4)25年度の実績と成果	国事業の一庫ダム湖活用環境整備事業により整備されたトイレなどの施設の維持管理、除草及びゴミ収集を、一般財団法人一庫ダム湖周辺環境整備センターに委託して実施した。 ダム湖周辺の良好な維持管理、また、施設の適切な維持管理により、ダム湖周辺を訪れた人々に良い印象を与え、本市の恵まれた自然環境のPRに繋がった。		



国崎せせらぎ地区①



国崎せせらぎ地区②

5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について ダム湖周辺の施設の適正な維持管理により本市の恵まれた自然環境のPRに繋がった。 今後もダム湖周辺の適正な維持管理を継続していく必要がある。	第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて ダム湖周辺に訪れた人々が快適に利用できるよう、ダム湖周辺の施設の維持管理等を今後とも適正に実施する。
自己評価 ☒ 適正 ☐ 改善の余地あり ☐ 改善すべき	今後の方向性 ☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	ダリヤ育成事業			決算書頁	328
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	15 観光資源を発掘・開発・PRし、知名度を高めます				
所管部・課	都市整備部 公園緑地課		作成者	課長 茨木 実	

2. 事業の目的

山形県川西町との友好の証であるダリヤを育成し、黒川ダリヤ園の知名度を高めることにより、本市北部の里山や環境をPRするとともに、地元地域の活性化を図る
--

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	15,242	15,412	△ 170	一般財源	15,242	15,412	△ 170	
	事業費	6,390	6,390	0	国県支出金			0	
	職員人件費	8,852	9,022	△ 170	地方債			0	
	公債費			0	特定財源(都市計画税)			0	
	職員数(人)	1	1	0	特定財源(その他)			0	
参考	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	ダリヤ育成事業	細事業事業費	6,390		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)		黒川ダリヤ園(黒川字落合389番地)			
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)		黒川ダリヤ園入場者数 16,344人			
(3)参画と協働の主な手法(実績)		補助、助成、報償			
(4)25年度の実績と成果					
黒川地域で黒川ダリヤ園を開設した。(平成25年9月13日～平成25年11月13日) 同期間の黒川ダリヤ園入場者数は、16,344人、協力金は2,735,046円集まった。					
ダリヤ園入場者数		(単位:人)			
	H21	H22	H23	H24	H25
入場者数	17,140	11,730	17,070	23,880	16,344
黒川ダリヤ園には、昨年同様、来場者が快適に見学できるよう休息テントや簡易トイレを設置した。 また、パンフレットを配布、ポスターを公共施設や公共交通機関等に掲示するとともに広報誌への掲載をするなどダリヤ園のPRに努めた。					



平成25年度 開園中の様子



ダリヤ品種「宵待ち乙女」

5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について 黒川ダリヤ園は地域団体に補助金を交付して運営しているが、来年度で補助期間が満了となるため、自主自立へ向けた運営体制の確立及び人材の確保が課題となっている。	第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて 黒川ダリヤ園の地域団体への補助期間の終了に伴い、今後の運営方針を26年度に決定する必要がある。スタッフの人材確保については、ダリヤ栽培教室を実施し、将来のスタッフ候補への育成を図る。
自己評価 ☐ 適正 ☒ 改善の余地あり ☐ 改善すべき	今後の方向性 ☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	文化振興事業			決算書頁	140
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	16 文化・スポーツを通して、市民が輝く環境づくりを進めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 瀧花 保		

2. 事業の目的

芸術文化の振興及び市民の芸術文化活動への支援

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	113,246	104,302	8,944	一般財源	一般財源	107,740	98,596	9,144
	事業費	95,542	85,254	10,288		国県支出金			0
	職員人件費	17,704	18,044	△ 340		地方債			0
	公債費		1,004	△ 1,004		特定財源(都市計画税)			0
参考	職員数(人)	2	2	0	特定財源(その他)	特定財源(その他)	5,506	5,706	△ 200
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞		文化振興事業		細事業事業費		12,212	
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)				市内外の市民全般			
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)							
(3)参画と協働の主な手法(実績)				補助、助成、報償			
(4)25年度の取組と成果							
・地域文化の向上のため、川西市文化協会、川西市吹奏楽団、川西市民合唱団、黒川地区地域文化(スポーツ)振興事業運営委員会に対して補助金を交付した。							
・若者の音楽活動を支援するとともに、文化への関心を喚起し、全国にオーディションを発信することにより川西市をPRするため、第1回「川西市アーティストオーディション」を開催した。							
出演者募集期間 2月1日～5月10日 エントリー数 105組253名							
①音源審査 ポーカル部門、アコースティック部門、バンド部門各10組を選出。							
②予選 6/1 アステ川西びいぷう広場 ポーカル、アコースティック部門							
6/2 アステホール バンド部門 決勝へ進む各部門5組を選出。							
③決勝 7月27日みづなホール ライブ選考(公開)入場者 のべ412名							
総合優勝 UK BAND、各3部門1位を決定。							
* 総合優勝者には希望により活動ツール制作、ライブサポートを実施。							

＜細事業2＞		文化・スポーツ振興財団支援事業		細事業事業費		77,954	
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)				市内外の市民全般			
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)							
(3)参画と協働の主な手法(実績)							
(4)25年度の取組と成果							
(公財)川西市文化・スポーツ振興財団が行う次の活動に対し、補助金を交付し、支援を行った。							
①市民に優れた音楽や舞台芸術の鑑賞機会を提供した。							
②地域の芸術、文化団体等の自主企画・運営による市民参画型の芸術、文化事業を実施した。							

【集客率】		(単位:%)				
項目	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
芸術、文化鑑賞事業	81.6	87.2	73.1	73.6	71.6	
育成及び援助事業	82.0	81.1	78.3	77.3	83.0	
合 計	81.8	84.9	75.5	75.2	75.9	

【自己財源率】		(単位:%)				
項目	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
自己財源率(%)	34.0	36.1	32.1	36.7	31.5	

※自己財源率の算出に下記の助成金額は含んでいない。
6,000千円(21年度) 7,300千円(22年度) 7,200千円(23年度)
5,830千円(24年度) 5,140千円(25年度)

(単位:千円)

〈細事業3〉	ギャラリーかわにし運営事業	細事業事業費	3,368								
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内外の市民全般										
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)											
(3)参画と協働の主な手法(実績)											
(4)25年度の取組と成果											
芸術活動の発表の場を提供し、同時に市民が多くの優れた作品に触れる機会を提供した。											
使用の範囲:美術に関するもの 使用期間:水曜日～月曜日まで											
開館時間:午前10時～午後7時まで<最終日は、午後5時まで>											
使用料(6日間) 第1展示室 市内利用者 60,000円 市外利用者 80,000円											
第2展示室 市内利用者 48,000円 市外利用者 64,000円											
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
市内利用者件数	94	96	97	90	95	年間利用可能枠数	98	100	100	98	98
市外利用者件数	4	4	3	8	3	利用率(%)	100	100	100	100	100
合 計	98	100	100	98	98						

〈細事業4〉	川西市展の実施	細事業事業費	2,008								
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内外の市民全般										
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	335点(出品点数) 1,582人(入場者数)										
(3)参画と協働の主な手法(実績)											
(4)25年度の取組と成果											
文化会館・中央公民館を会場に、洋画・日本画・書・立体・工芸・写真・現代美術の7部門、1部門1点作品を募集した(16歳以上対象)。											
審査後、入選・入賞作品を展示、最終日に表彰式を行った。											
昨年度より1日増やし、展示期間を5日間(2月11日から15日まで)としたところ、1,582人の入場者があり、盛況のうちに終了した。											
また、学生の出品数増を図るため、高校・大学・専門学校生の出品料を500円にした。(一般は1500円)											
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	(出品点数)					
洋 画	64	80	79	78	93	洋 画	64	80	79	78	93
現代美術	15	14	5	11	16	現代美術	15	14	5	11	16
日本画	24	21	26	25	32	日本画	24	21	26	25	32
書	12	18	9	9	15	書	12	18	9	9	15
立 体	9	4	4	1	7	立 体	9	4	4	1	7
工 芸	31	30	18	21	19	工 芸	31	30	18	21	19
写 真	132	139	136	129	153	写 真	132	139	136	129	153
合 計	287	306	277	274	335	合 計	287	306	277	274	335

5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について		第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて	
(団体補助金)各団体とも様々な事業を展開し活動しているが、今後より一層、自主的な運営、自立をしていくことが望まれる。		(団体補助)各団体が、自主的な運営、自立できるよう助言していく。	
(文化・スポーツ振興財団支援事業)集客率はほぼ横ばいである。今後も、新たな事業を企画したり、事業のPRに力を入れ、さらに集客に向けて取り組む必要がある。		(財団支援事業)スポーツ部門との共同の事業を展開するなど、利用者の幅広いニーズに応える新たな事業の創出などに取り組み、集客を図るよう、財団と協議を進めていく。	
		(ギャラリーかわにし)施設が老朽化しているため、計画的な施設の修理・更新を進めていく。	
自己評価	☐ 適正 ☒ 改善の余地あり ☐ 改善すべき	今後の方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	芸術文化施設維持管理事業			決算書頁	142
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	16 文化・スポーツを通して、市民が輝く環境づくりを進めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 瀧花 保		

2. 事業の目的

芸術文化施設の効果的・効率的な管理、運営

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	163,766	162,558	1,208	一般財源		109,001	101,614	7,387
	事業費	158,969	159,237	△ 268	国県支出金				0
	職員人件費			0	地方債		12,900	20,900	△ 8,000
	公債費	4,797	3,321	1,476	特定財源(都市計画税)				0
参考	職員数(人)			0	特定財源(その他)		41,865	40,044	1,821
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	芸術文化施設維持管理事業	細事業事業費	158,969		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市内外の市民全般				
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)					
(3)参画と協働の主な手法(実績)					
(4)25年度の取組と成果					
・芸術文化施設(文化会館・みつなかホール)の適正な維持管理に努めるとともに、市民が快適に使用できるよう環境を整えた。 また、貸館サービスの提供を充実させるため、みつなかホール調光操作卓入替、舞台機構入替修繕を行った。 ・公益財団法人 川西市文化・スポーツ振興財団が芸術文化施設の維持管理を行った。					
【施設使用料収入】(単位:円)					
項 目	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
文化会館	8,717,300	10,823,710	12,665,090	12,130,510	14,054,410
みつなかホール	26,058,830	24,584,130	26,554,930	25,252,770	24,661,770
計	34,776,130	35,407,840	39,220,020	37,383,280	38,716,180
【指定管理料】(単位:円)					
項 目	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
文化会館	36,100,397	34,182,990	37,987,170	36,284,379	37,092,543
みつなかホール	70,426,859	73,106,151	72,407,801	72,688,011	75,654,913
計	106,527,256	107,289,141	110,394,971	108,972,390	112,747,456

【施設利用率(%)】

(文化会館)

施設名	24年度	25年度	施設名	24年度	25年度
大ホール	73.4	72.8	和室1 *	0.6	0.0
大集会室	17.4	14.5	和室2 *	17.3	23.4
レセプションルーム	29.1	35.5	講座室 *	9.2	13.0
第1会議室	20.1	14.7	調理室 *	9.8	10.1
第2会議室	13.3	9.2	第1文化セミナー室	61.4	61.3
第3会議室	12.1	14.1	第2文化セミナー室	42.4	41.9
第4会議室	44.4	46.2	第3文化セミナー室	87.9	87.6
第5会議室	51.6	50.3	第4文化セミナー室	81.3	83.8
			スタジオ	52.7	61.6

* 大集会室、第1～第5会議室、和室1・2、講座室及び調理室は中央公民館複合施設のため、公民館として利用のない部分での利用状況

(みつなかホール)

施設名	24年度	25年度
ホール	74.2	72.9
文化サロン	87.5	88.9
第1セミナー室	72.9	70.1
第2セミナー室	85.4	89.2
第1スタジオ	80.9	86.2
第2スタジオ	94.0	96.6

5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について みつなかホールの調光卓等の入替修繕等を実施し、利用者の利便性の向上を図った。 文化会館大ホール、みつなかホールとも利用率は横ばいであるが、全体として高い利用率を維持していると考えている。	第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて みつなかホールは平成8年の開館から18年を経過しており、機器・設備の更新時期を迎えていることから、計画的な維持補修を進めていく。
自己評価 ☒ 適正 ☐ 改善の余地あり ☐ 改善すべき	今後の方向性 ☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小

評価は、「妥当性」「効率性」「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	生涯スポーツ推進事業			決算書頁	158
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	16 文化・スポーツを通して、市民が輝く環境づくりを進めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 瀧花 保		

2. 事業の目的

生涯を通じてスポーツに親しめる環境づくりを進める

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	28,905	44,304	△ 15,399	一般財源		28,905	38,624	△ 9,719
	事業費	11,201	17,238	△ 6,037	国県支出金				0
	職員人件費	17,704	27,066	△ 9,362	地方債				0
	公債費			0	特定財源(都市計画税)				0
参考	職員数(人)	2	3	△ 1	特定財源(その他)			5,680	△ 5,680
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	生涯スポーツ推進事業	細事業事業費	7,575		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	市民全般				
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)					
(3)参画と協働の主な手法(実績)	ボランティア・NPO等との連携	補助、助成、報償	その他(スポーツクラブ21運営の支援)		
(4)25年度の取組と成果					
・小学校体育施設の開放 小学校体育施設を、学校教育に支障のない範囲で校区内住民が組織したスポーツ団体に開放し、活動の拠点とした。 老若男女を問わず、多くの市民が小学校体育施設を利用してスポーツ活動を行った。					
小学校体育施設開放利用者数 (単位:人)					
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
学校体育施設利用者	257,832	249,347	225,930	268,809	246,664
プール開放利用者数	22,006	25,729	24,500	25,063	23,461
・「スポーツクラブ21ひょうご」事業の推進 小学校区ごとに組織されたスポーツクラブ21の運営を支援し、生涯スポーツの振興を図った。					
スポーツクラブ21会員数 (単位:人)					
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
スポーツクラブ21会員数	6,474	6,591	6,238	6,100	6,092
・スポーツ推進委員の活動、生涯スポーツの普及 月1回の定例会を開催するとともに、資質の向上のため、阪神北地区及び兵庫県のスポーツ推進委員研修会に参加した。 スポーツ推進委員の協力を得て、子供から高齢者まで楽しく参加できるレクリエーションスポーツ大会を開催した。					
レクリエーションスポーツ大会参加者数 (単位:人)					
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
カローリング大会等(3回)	135	234	228	246	264
平成21年度は2回開催					
・生涯スポーツ指導者の養成 生涯スポーツの普及に欠かせない指導者の養成と資質の向上のため、生涯スポーツ指導者研修会を開催した。					
生涯スポーツ指導者研修会					
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
研修会参加者数(人)	49	45	45	41	40
参加者の平均年齢(歳)	57	59	57	60	60

(単位:千円)

＜細事業2＞	一庫ダム周遊マラソン大会開催支援事業	細事業事業費	3,626		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	マラソン愛好者等				
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)	3,355人(平成25年度参加者)				
(3)参画と協働の主な手法(実績)	共催、実行委員会	補助、助成、報償			
(4)25年度の取組と成果					
・川西一庫ダム周遊マラソン大会の開催 生涯スポーツ及び競技スポーツの普及の一環として、誰もが体力や年齢に応じて参加できる市民マラソン大会を開催した。 小学生から高齢者まで幅広い世代が参加し、川西市の秋の一大イベントとして盛り上がりを見せた。					
川西一庫ダム周遊マラソン大会参加者					
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
参加者数(人)	3,095	2,482	2,491	2,556	3,355
うち川西市民数(人)	1,454	1,245	1,284	1,332	1,150
川西市民の参加割合(%)	47	50	52	52	34

5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について スポーツ推進委員及びスポーツクラブ21と協働して、スポーツを通じた地域の交流の場を確保するとともに、こどもから高齢者まで気軽に楽しめるレクリエーションスポーツの楽しさを体感してもらう機会を作ることができた。 スポーツクラブ21については、ここ数年会員数が減少傾向にあり、各クラブの会員数および財源の確保が重要な課題となっている。 川西一庫ダム周遊マラソン大会では、小中学生並びに2kmペアの参加料を減額し参加者増につなげるとともに、インターネットによる参加申込受付を拡充し、市外からの参加者が大幅に増加した。 参加者の増加に伴い、会場整理や輸送手段の確保等、これまで以上にランナーの利便性や安全性の向上を図る必要がある。		第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて スポーツクラブ21については、自主財源のみで運営するクラブが増えてくることから、これまで以上に会員数や財源の確保など、継続的にクラブ運営を行っていくうえでの課題について各クラブとともに検討していく。 川西一庫ダム周遊マラソン大会については、参加者の増加に対応して、受付の簡素化や会場整理、輸送手段の確保など、ランナーの利便性や安全性の確保に取り組む。	
自己評価	☐ 適正 ☒ 改善の余地あり ☐ 改善すべき	今後の方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	競技スポーツ推進事業			決算書頁	160
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	16 文化・スポーツを通して、市民が輝く環境づくりを進めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 瀧花 保		

2. 事業の目的

スポーツ団体の自主的活動を支援し、団体の育成と競技力の向上を図る

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	13,250	12,947	303	一般財源		13,250	12,947	303
	事業費	4,398	3,925	473	国県支出金				0
	職員人件費	8,852	9,022	△ 170	地方債				0
	公債費			0	特定財源(都市計画税)				0
参考	職員数(人)	1	1	0	特定財源(その他)				0
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞	競技スポーツ推進事業	細事業事業費	4,398		
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)	競技スポーツ団体及び競技者				
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)					
(3)参画と協働の主な手法(実績)	その他(市民公益活動団体の事務局)	補助、助成、報償			
(4)25年度の取組と成果					
・スポーツ団体への支援					
川西市体育協会や川西市スポーツ少年団等の自主活動を支援し、競技スポーツ団体の育成と競争力の向上を図った。					
加盟団体数		(単位:団体)			
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
川西市体育協会	29	29	29	30	30
川西市スポーツ少年団	25	25	25	25	24
団体会員数		(単位:人)			
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
川西市体育協会	15,831	15,122	15,223	14,609	15,351
川西市スポーツ少年団	1,022	1,007	1,073	1,084	1,071
・青少年全国大会等出場者への激励					
予選を経て国際大会や全国規模のスポーツ大会に出場する18歳以下の市民を対象に、激励金を支出した。					
青少年全国大会等出場激励金支給者数		(単位:人)			
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
オリンピック	0	0	0	0	0
アジア大会等	0	0	1	0	2
国際大会	2	0	1	0	0
国民体育大会	1	3	3	0	4
全国大会等	47	40	74	30	64
合 計	50	43	79	30	70

・広域スポーツ大会(当番市大会)への助成

阪神間または県下の大会を川西市で開催する団体に対して、大会運営に伴う運営費の一部を助成した。

広域スポーツ大会(当番市大会)開催件数

(単位:件)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
開催件数	1	3	2	1	4



5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について

スポーツ団体の自主的活動への支援を行うことで、各団体の円滑な運営、及び各競技選手の活動の場づくりに貢献した。

また、青少年全国大会等出場激励金を支給することで、青少年の今後の活躍を激励した。

引き続き、スポーツ団体への支援を通して、競技スポーツを行う市民が活動しやすい環境を作ること、また競技人口に関わらず選手の活躍を支援・PRすることが重要である。

第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて

広報誌やホームページ等でスポーツ団体の活動やその魅力について紹介し、広く周知するなどし、活動の場を探す市民とスポーツ団体のマッチングを図る。

また、引き続き青少年全国大会等出場激励金を支給等を通して選手の活躍を称え、市内外へのPRに努める。

自己評価

- ☐ 適正
☒ 改善の余地あり
☐ 改善すべき

今後の方向性

- ☐ 拡充
☒ 継続
☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	スポーツ施設管理運営事業			決算書頁	160
視点・政策	01 暮らし・02 にぎわう				
施策	16 文化・スポーツを通して、市民が輝く環境づくりを進めます				
所管部・課	市民生活部 文化・観光・スポーツ課	作成者	課長 瀧花 保		

2. 事業の目的

社会体育施設及び東久代運動公園を適切に維持管理する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		25年度	24年度	比較	財源		25年度	24年度	比較
内訳	総事業費	297,465	292,159	5,306	一般財源		233,718	230,411	3,307
	事業費	268,505	262,931	5,574	国県支出金			3,401	△ 3,401
	職員人件費			0	地方債				0
	公債費	28,960	29,228	△ 268	特定財源(都市計画税)				0
参考	職員数(人)			0	特定財源(その他)		63,747	58,347	5,400
	再任用職員数(人)			0					

4. 事業目的達成のための手段と成果

(単位:千円)

＜細事業1＞		スポーツ施設管理運営事業		細事業事業費		268,505	
(1)対象者(建設事業の場合は施設名及び所在地)				全市民			
(2)対象者数(建設事業の場合は面積・延長等)				約160,000人			
(3)参画と協働の主な手法(実績)							
(4)25年度の取組と成果							
・(公財)川西市文化・スポーツ振興財団への支援等 社会体育施設等の維持管理を行い、また市民を対象とした各種スポーツ教室等を開催する、指定管理者の(公財)川西市文化・スポーツ振興財団を支援した。							
施設の使用者数				(単位:人)			
施 設 名		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
総合体育館		203,476	211,480	201,012	191,951	194,810	
市民体育館		56,096	59,804	62,880	57,335	56,865	
市民運動場		67,833	72,956	70,359	72,498	69,251	
市民温水プール		96,693	94,578	94,022	97,958	96,112	
東久代運動公園		83,156	84,076	84,672	82,560	41,141	
合 計		507,254	522,894	512,945	502,302	458,179	
主な施設の利用率(施設使用時間÷施設使用可能時間)				(単位:%)			
施 設 名		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
総合体育館第1体育室		84.3	86.8	88.5	88.7	88.6	
市民体育館主競技場		74.2	75.4	80.7	77.4	77.2	
市民運動場		60.0	68.2	72.5	75.8	75.4	
東久代運動公園(野球場)		37.6	36.2	33.9	32.0	30.1	
市民運動場テニスコート		84.7	82.0	81.8	81.0	80.2	
東久代運動公園テニスコート		41.1	38.6	37.8	34.7	30.1	

・社会体育施設等の維持管理

社会体育施設（総合体育館、弓道場、市民体育館、市民温水プール、市民運動場）及び東久代運動公園の適切な維持管理に努めるとともに、市民が安全で快適に使用できるように環境を整えた。

25年度に実施した施設の主な修繕

（単位：円）

細 節	件 名	金 額
総合体育館	スロープ修繕	75,600
	第2武道室木製フローリング修繕	766,500
	第1体育室放送設備修繕	1,575,000
市民体育館	自家用発電設備修繕	250,950
市民 温水プール	小人・幼児用プールろ過ポンプモーターベアリング交換	140,700
	一般用プールろ過ポンプモーター交換	210,000
	雨水管修繕	403,200
	給湯用ボイラー及びファンコンベクター修繕	930,300
	強制シャワー及び給湯ラインポンプ修繕	1,680,000
	濾過機及び操作弁修繕	9,975,000

・市民体育館の老朽化による建替えに伴い、PFI事業に関する協議等を行った。

・台風により使用不可となった東久代運動公園の災害復旧のため、ボランティア548人の協力を得てがれきを集めたうえで、復旧工事を行った。

5. 担当部長による自己評価、及び今後の方向性、見通し等

25年度の事業全体の成果や課題について 各社会体育施設の老朽化に伴って、計画的に修繕等を行った。 台風により使用できなくなった東久代運動公園の復旧のため市民、スポーツ団体加入者、職員等548人ものボランティアが集まり、協力してがれき集めを行った。 屋外施設の使用率については、東久代運動公園の復旧後はその使用率の向上を図る必要がある。 各社会体育施設については、引き続き利用者の安全面を第一に考慮した改修を計画的に行う必要がある。また、スポーツ教室については、利用者の満足の声や人気が集まる教室がある一方、定員に達しない教室も見受けられた。		第5次総合計画実現に向け、26年度以降における具体的な改善点や見通しについて 老朽化に伴う修繕等について、今後とも計画的に、また緊急修繕等についても機動的に対応していく。 屋外施設の使用率の向上のため、特に平日昼間に比較的時間的余裕があると思われる高齢者や学生のサークル活動等を対象にした広報活動を検討する。 指定管理者については、各施設の日常の維持管理はもちろん、市民のニーズに合ったスポーツ教室の開催等、効率的な運営をめざして、協議を進める。	
自己評価	☐ 適正 ☒ 改善の余地あり ☐ 改善すべき	今後の方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小

評価は、「妥当性」・「効率性」・「有効性」、及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで判断しています。

